

令和3年度実績に係る部局評価書について

1. 令和3年度実績に係る部局評価制度

- ・各理事は、各部局に特に取り組みを求める大学年度計画を提示し、部局は大学年度計画に
関係する計画及び部局独自の計画を策定した。
- ・部局による自己評価結果、指標の達成状況等を質保証総括オフィス及び各理事が総合的に
判断し評価した。

2. 評価の結果

(1) 全体の評価結果 … 「令和3年度実績に係る部局評価書」のとおり。

(2) 部局年度計画の評価結果

- SS評価が 18 個、S評価は 98 個となり、各部局にて部局年度計画に対して優れた取組
が実施されている。

達成状況	評価	R3 年度 実績	(参考) R2 年度実績
年度計画の達成状況が非常に優れている	SS	18	13
年度計画の達成状況が優れている	S	98	66
年度計画の達成状況が良好である	A	173	208
年度計画の達成状況が不十分である	B	27	30
年度計画の達成のためには重大な改善事項がある	C	4	3
計		320	320

○ 特筆すべき事項(SS評価のうち主なもの)

区分名	部局名	評価理由
教育	医学部・医学系研究科(保健学)、生命機能研究科	目標を十分に上回っており、前年度からの外国語力の基準を満たす学生数の割合の増加率も全学トップクラスである点は、高く評価できる。
研究	医学部・医学系研究科、連合小児発達学研究科、接合科学研究所	常勤教員の論文数は、前年度実績よりも増加し、大学の実績に大きく寄与していることは、高く評価できる。
	医学部・医学系研究科(保健学)、工学部・工学研究科、基礎工学部・基礎工学研究科、産業科学研究所、社会経済研究所	競争的資金の獲得金額は前年度より高額でかつ、目標値を上回っている点は、高く評価できる。
社会貢献 (産学共創)	医学部・医学系研究科	全学的にみても非常に高額な共同研究・受託研究の受入金額であり、さらに目標値を上回っていることは、高く評価できる。

グローバル化	歯学部・歯学研究科	オンラインでの研修プログラムを効果的に実施し、目標値及び前年度からの外国人留学生の増加率が極めて大きく、高く評価できる。
業務運営	接合科学研究所	外国籍教員の対前年度比の増加率が全学トップクラスであり、高く評価できる。
	人間科学部・人間科学研究科	女性研究者比率が増加し、数値目標を大幅に上回り 40%以上となっていることは、高く評価できる。
	情報科学研究科、産業科学研究所、接合科学研究所	若手教員の割合が、前年度実績よりも増加し、数値目標を上回っていることは、高く評価できる。

○改善すべき事項(C 評価)

区分名	評価理由
社会貢献 (産学共創)	該当の4部局について、各種の取組は評価できるが、共同研究・受託研究の受入金額の実績値に基づき判断した。学内の支援体制を積極的に活用し、今後の向上に期待したい。

3. 総括

学内の各組織における強みや特色を生かした活動状況を定性的な面から評価し、組織内の PDCA サイクルの活性化につなげるとともに、大学として重視する事項への達成度を定量的な面から評価し、各組織の取組が大学の方向性に沿っているかを確認した。

令和3年度実績に係る部局評価書

【目 次】

区 分	頁 数	部 局 名
文 系	P.1	文学部・文学研究科
	P.2	人間科学部・人間科学研究科
	P.3	外国語学部
	P.4	法学部・法学研究科
	P.5	経済学部・経済学研究科
	P.6	言語文化研究科
	P.7	国際公共政策研究科
理 系	P.8	理学部・理学研究科
	P.9	医学部・医学系研究科
	P.10	医学部・医学系研究科（保健学）
	P.11	歯学部・歯学研究科
	P.12	薬学部・薬学研究科
	P.13	工学部・工学研究科
	P.14	基礎工学部・基礎工学研究科
	P.15	情報科学研究科
	P.16	生命機能研究科
	P.17	連合小児発達学研究科
研究所・センター	P.18	微生物病研究所
	P.19	産業科学研究所
	P.20	蛋白質研究所
	P.21	社会経済研究所
	P.22	接合科学研究所
	P.23	核物理研究センター
	P.24	サイバーメディアセンター
	P.25	レーザー科学研究所

令和3年度実績に係る部局評価書

文学部・文学研究科

項 目	評 定	主なコメント
【教育】	S	年度計画の達成状況が優れている。
		・外国語力向上の取組とともに状況調査を行い、外国語力の基準を満たす学生数の割合を高め、目標値を達成している点が評価できる。
【研究】	A	年度計画の達成状況が良好である。
		・競争的資金の獲得件数はわずかに目標値に至らなかったが、獲得金額を増加させ、目標値を達成したことは評価できる。
【社会貢献 （産学共創）】	C	年度計画の達成のためには重大な改善事項がある。
		・共同研究・受託研究の受入金額については、成果指標の実績値に基づき判断した。 ・共同研究・受託研究の獲得に向けて、学内の支援体制を積極的に活用し、今後の向上に期待したい。
【グローバル化】	S	年度計画の達成状況が優れている。
		・コロナ渦の影響の中で目標値を上回る外国人留学生比率としており、評価できる。
【業務運営】	A	年度計画の達成状況が良好である。
		・女性研究者比率が前年度に引き続き30%以上となっており、数値目標を達成しており、さらに女性限定公募の取組を継続して行っていることは評価できる。

※ 評定は「SS・S・A・B・C」の5段階評価である。

令和3年度実績に係る部局評価書

人間科学部・人間科学研究科

項 目	評 定	主なコメント
【教育】	A	年度計画の達成状況が良好である。
		・外国語力の基準を満たす学生の割合の増加のため、着実な取組を実施しており、順調に進捗している。
【研究】	A	年度計画の達成状況が良好である。
		・論文数が大幅に増加し、目標を達成していることは評価できる。
【社会貢献 （産学共創）】	A	年度計画の達成状況が良好である。
		・共同研究・受託研究の受入金額は、目標値を達成する等、順調な進捗が見られ、評価できる。
【グローバル化】	A	年度計画の達成状況が良好である。
		・コロナ禍の影響により、目標値には到達していないものの、日本人海外派遣学生比率向上に向けた各種支援を行っていることは評価できる。
【業務運営】	S	年度計画の達成状況が優れている。
		・外国人教員の割合が前年度より減少しているが、目標値を達成したことは評価できる。 ・学生に対し、「子育て・研究両立支援および子育て学業両立支援」を実施し、女性研究者の裾野拡大に貢献している。また、育児休業取得時に係るガイドラインなど積極的な取組を継続して行っていることは評価できる。 ・女性研究者比率も増加し、数値目標を大幅に上回り40%以上となっていることは、注目に値する。

※ 評定は「SS・S・A・B・C」の5段階評価である。

令和3年度実績に係る部局評価書

外国語学部

項 目	評 定	主なコメント
【教育】	S	年度計画の達成状況が優れている。
		・外国語力の基準を満たす学生の割合は、前年度よりも数値を上昇させ、数値目標を達成しており、さらに到達度目標を設定する取組を進めている点は高く評価できる。
【研究】		—
【社会貢献 （産学共創）】		—
【グローバル化】	S	年度計画の達成状況が優れている。
		・外国人留学生比率は、目標を達成し、かつ、前年度から実績値が大幅に向上しており、評価できる。 ・日本人海外派遣学生比率等、目標値には達していないものの、前年度から実績値が大幅に向上しており、高く評価できる。
【業務運営】		—

※ 評定は「SS・S・A・B・C」の5段階評価である。

令和3年度実績に係る部局評価書

法学部・法学研究科

項 目	評 定	主なコメント
【教育】	A	年度計画の達成状況が良好である。
		・外国語力の基準を満たす学生数の割合の増加に向けて、着実な取組を実施しており、順調に進捗している。
【研究】	A	年度計画の達成状況が良好である。
		・競争的資金の獲得件数・金額については、目標値を下回ったものの、様々な施策を実施しており努力は評価に値する。
【社会貢献 （産学共創）】	C	年度計画の達成のためには重大な改善事項がある。
		・共同研究・受託研究の受入金額については、成果指標の実績値に基づき、判断した。 ・共同研究・受託研究の獲得に向けて、学内の支援体制を積極的に活用し、今後の向上に期待したい。
【グローバル化】	S	年度計画の達成状況が優れている。
		・オンライン入試を導入するなどの取組により、外国人留学生比率は目標値の2倍となる結果を出しており、高く評価できる。 ・コロナ禍の影響がありながらも、目標を超える外国人留学生を受け入れており、高く評価できる。
【業務運営】	A	年度計画の達成状況が良好である。
		・女性研究者比率について数値目標が未達成であるが、実績値は、やむを得ない理由により目標を達成していないものの、人事委員会の女性研究者積極採用の姿勢や、助教ポストの活用は評価できる。今後は、長期的な人事計画で、女性研究者を増加させることを期待する。

※ 評定は「SS・S・A・B・C」の5段階評価である。

令和3年度実績に係る部局評価書

経済学部・経済学研究科

項 目	評 定	主なコメント
【教育】	A	年度計画の達成状況が良好である。
		・外国語力の基準を満たす学生数の割合の増加に向けて、着実な取組を実施しており、順調に進捗している。
【研究】	A	年度計画の達成状況が良好である。
		・競争的資金の獲得件数・金額については、目標値には届かなかったものの、インセンティブ制度を工夫するなどの取組は認められ、順調に進捗している。
【社会貢献 （産学共創）】	B	年度計画の達成状況が不十分である。
		・共同研究・受託研究の受入金額については、産学連携の取組は評価できるが、成果指標の実績値に基づき、判断した。 ・共同研究・受託研究の獲得に向けて、学内の支援体制を積極的に活用し、今後の向上に期待したい。
【グローバル化】	S	年度計画の達成状況が優れている。
		・大学院において外国人留学生を受け入れる体制を整え、コロナ禍でありながら、目標を上回る結果が出ていることは、高く評価できる。
【業務運営】	B	年度計画の達成状況が不十分である。
		・女性研究者比率について数値目標が未達成であるが、令和3年度は新たに大型科研の間接経費を活用した女性研究者ポストを創設するなどの取組は評価でき、今後に期待する。

※ 評定は「SS・S・A・B・C」の5段階評価である。

令和3年度実績に係る部局評価書

言語文化研究科

項 目	評 定	主なコメント
【教育】	S	年度計画の達成状況が優れている。 ・ 外国語力の基準を満たす学生数の割合は、目標値を上回る実績をあげており、高く評価できる。
【研究】	A	年度計画の達成状況が良好である。 ・ 常勤教員の論文数は、前年度からは減少しているが、目標値を達成しており、評価できる。 ・ 競争的資金の獲得件数、金額を前年度よりも増加させ、目標値を達成しており、評価できる。
【社会貢献 （産学共創）】	C	年度計画の達成のためには重大な改善事項がある。 ・ 共同研究、受託研究の受入金額は、これまで進めてきた共同研究の終了等、厳しい状況は理解できるが、成果指標に基づいて判断した。 ・ 共同研究・受託研究の獲得に向けて、学内の支援体制を積極的に活用し、今後の向上に期待したい。
【グローバル化】	A	年度計画の達成状況が良好である。 ・ 目標値は下回っているものの、コロナ禍の困難な状況にも関わらず、オンラインなどの活用により、外国人留学生数を増加させたことは評価できる。
【業務運営】	A	年度計画の達成状況が良好である。 ・ 女性研究者比率について数値目標が未達成となっているが、女性研究者の数が1名減少にとどまっており、40%近くを維持していることは評価できる。

※ 評価は「SS・S・A・B・C」の5段階評価である。

令和3年度実績に係る部局評価書

国際公共政策研究科

項 目	評 定	主なコメント
【教育】	S	年度計画の達成状況が優れている。
		・ 外国語力の基準を満たす学生数の割合は、目標値をわずかに下回っているものの、目標値が非常に高く設定されており、前年度から実績値を伸ばしていることは高く評価できる。
【研究】	A	年度計画の達成状況が良好である。
		・ 論文数は、目標値を達成しており、評価できる。 ・ 組織的な取組により、競争的資金の獲得金額は目標値を上回っており、評価できる。
【社会貢献 （産学共創）】	B	年度計画の達成状況が不十分である。
		・ 共同研究・受託研究の受入金額は、目標値を下回った理由は理解できるものの、成果指標の実績値に基づき、判断した。 ・ 共同研究・受託研究の獲得に向けて、学内の支援体制を積極的に活用し、今後の向上に期待したい。
【グローバル化】	A	年度計画の達成状況が良好である。
		・ 外国人留学生比率は、コロナ禍の影響により、目標値には到達していないものの、オンライン入試の活用等の取組は評価できる。
【業務運営】	A	年度計画の達成状況が良好である。
		・ 女性研究者比率について数値目標をわずかに下回っているが、令和4年度から、新たに3名の女性教員が着任し、比率が大幅にアップしていることは評価できる。 ・ 若手教員の割合については、前年度よりも人数・割合を増やし、目標値を達成できた点が評価できる。

※ 評定は「SS・S・A・B・C」の5段階評価である。

令和3年度実績に係る部局評価書

理学部・理学研究科

項 目	評 定	主なコメント
【教育】	A	年度計画の達成状況が良好である。
		・ 外国語力の基準を満たす学生数の割合の増加に向けて、着実な取組を実施しており、順調に進捗している。
【研究】	A	年度計画の達成状況が良好である。
		・ 競争的資金の獲得件数・金額は目標値を下回っているものの、大型プロジェクトの採択件数が多く、評価できる。
【社会貢献 （産学共創）】	A	年度計画の達成状況が良好である。
		・ 共同研究・受託研究の受入金額等の成果指標に関しては、学内の支援体制を積極的に活用し、今後の向上に期待したい。
【グローバル化】	S	年度計画の達成状況が優れている。
		・ 外国人留学生比率向上に向けて、研究科独自のサマープログラム（International Summer Program）をオンラインで開催し、当初の予想をはるかに上回る数の参加者を得たことが高く評価できる。 また、前年度から実績値が増加し、目標を上回っていることは高く評価できる。
【業務運営】	A	年度計画の達成状況が良好である。
		・ 女性研究者比率について数値目標が未達成であるが、女性限定ポストの活用を継続し、「女性科学者サミット」も継続して開催し、ロールモデルの提示や環境醸成に取り組んでいるところであり、今後に期待する。 ・ 若手教員の増加とともに、若手のサバティカル制度に関する取組が高く評価できる。

※ 評定は「SS・S・A・B・C」の5段階評価である。

令和3年度実績に係る部局評価書

医学部・医学系研究科

項 目	評 定	主なコメント
【教育】	S	年度計画の達成状況が優れている。
		・ 目標値を上回り、前年度からの外国語力の基準を満たす学生数の割合の増加率が全学トップクラスである点は、高く評価できる。
【研究】	S	年度計画の達成状況が優れている。
		・ 論文数は全学的にも例年高い水準を維持しており、今年度もそれを超えて発表されていることが評価される。 ・ 論文数は前年度からの増加が著しく、大学を牽引する成果をあげており、極めて高く評価できる。
【社会貢献 （産学共創）】	SS	年度計画の達成状況が非常に優れている。
		・ 全学的にみても非常に高額な共同研究・受託研究の受入金額であり、さらに目標値を上回っていることは、高く評価できる。
【グローバル化】	S	年度計画の達成状況が優れている。
		・ 外国人留学生比率が前年度より大幅に増加し、数値目標を大きく上回ったことは高く評価できる。また国際共同学位プログラムがS評価を受けたことも注目に値する。 ・ 日本人海外派遣学生比率向上に向けて、コロナ禍におけるオンライン留学を積極的に取り入れている点は評価できる。
【業務運営】	S	年度計画の達成状況が優れている。
		・ 積極的に公募活動を行い、外国人教員の割合が増加したことは、高く評価できる。 ・ 女性研究者比率について数値目標は未達成であるが、わずかに増加、女性研究者数も2名増加しており、医学部附属病院と連携した臨床系の女性研究者増加策も期待できる。

※ 評定は「SS・S・A・B・C」の5段階評価である。

令和3年度実績に係る部局評価書

医学部・医学系研究科（保健学）

項 目	評 定	主なコメント
【教育】	SS	年度計画の達成状況が非常に優れている。 ・ 目標を十分に上回っており、前年度からの外国語力の基準を満たす学生数の割合の増加率も全学トップクラスである点は、非常に高く評価できる。
【研究】	S	年度計画の達成状況が優れている。 ・ 論文数を年々増加させており、目標値からも大きく上回っていることが、高く評価できる。 ・ 競争的資金の獲得件数が目標に達しなかったものの、獲得金額が目標を大幅に上回っており、高く評価できる。
【社会貢献 （産学共創）】	S	年度計画の達成状況が優れている。 ・ 共同研究・受託研究の受入金額は、目標値を大きく上回っており、評価できる。
【グローバル化】	A	年度計画の達成状況が良好である。 ・ 目標値には達しなかったが、外国人留学生比率向上を目指し、オンラインを活用した学生交流を積極的に行うなどの取組は、評価できる。 ・ 目標値には達しなかったが、日本人留学生増加に向けた取組を積極的に行っており、評価できる。
【業務運営】	S	年度計画の達成状況が優れている。 ・ 女性研究者比率について数値目標が未達成であるが、40%以上を維持しており、評価できる。 ・ 若手教員の割合は、目標を上回り、かつ、前年度からも大きく増加しており、高く評価できる。

※ 評定は「SS・S・A・B・C」の5段階評価である。

令和3年度実績に係る部局評価書

歯学部・歯学研究科

項 目	評 定	主なコメント
【教育】	S	年度計画の達成状況が優れている。
		・外国語力の基準を満たす学生数の割合について、オンラインにて、海外の歯学部学生向け研修プログラムを実施している点は、高く評価できる。
【研究】	S	年度計画の達成状況が優れている。
		・論文数は全学的にも高水準にあるところ、目標値を大きく上回り、前年度からも増加していることが高く評価できる。 ・科研費の採択率は、全国の歯学部・歯学研究科の中で第1位を堅持しており、高く評価できる。
【社会貢献 (産学共創)】	S	年度計画の達成状況が優れている。
		・共同研究・受託研究の受入金額については、目標値を上回るとともに、共同研究および受託研究の受入件数の増加等、順調な進捗が見られる。
【グローバル化】	S	年度計画の達成状況が優れている。
		・オンラインでの研修プログラムを効果的に実施し、目標値及び前年度からの外国人留学生の増加率が極めて大きく、非常に高く評価できる。
【業務運営】	S	年度計画の達成状況が優れている。
		・海外の大学とクロスアポイントメント協定を締結し、外国籍教員の採用を積極的に行い、目標を上回っていることが高く評価できる。 ・女性研究者比率について着実に増加している。数値目標を大幅に上回り、30%以上となっており、高く評価できる。

※ 評定は「SS・S・A・B・C」の5段階評価である。

令和3年度実績に係る部局評価書

薬学部・薬学研究科

項 目	評 定	主なコメント
【教育】	A	年度計画の達成状況が良好である。
		・ 外国語力の基準を満たす学生数の割合は目標値には到達しており、シラバスの英語化等を順調に進めている点が評価できる。
【研究】	S	年度計画の達成状況が優れている。
		・ 論文数が前年よりも大きく増加しており、高く評価できる。 ・ 競争的資金の獲得金額が目標値を超えており、評価できる。
【社会貢献 （産学共創）】	S	年度計画の達成状況が優れている。
		・ 共同研究・受託研究の受入金額は、実績値が目標値を大きく上回っており、高く評価できる。
【グローバル化】	A	年度計画の達成状況が良好である。
		・ 日本人海外派遣学生比率等の各成果指標において、コロナ禍におけるオンラインを活用した各種取組は、評価できる。
【業務運営】	S	年度計画の達成状況が優れている。
		・ 教授選考にあたり、選考委員会からは原則として候補者（4名以内）のうち少なくとも1名は女性候補者を選出する申し合わせを策定したことは特筆すべき取組と 言え、女性研究者比率の数値目標も達成しており、評価できる。 ・ 目標値を上回る若手教員の割合を達成しており、評価できる。

※ 評定は「SS・S・A・B・C」の5段階評価である。

令和3年度実績に係る部局評価書

工学部・工学研究科

項 目	評 定	主なコメント
【教育】	A	年度計画の達成状況が良好である。
		・ 目標値を上回り、かつ、前年度比でも外国語力の基準を満たす学生数の割合が増加しており、評価できる。
【研究】	S	年度計画の達成状況が優れている。
		・ 論文数は全学的に高い水準であり、また前年の数値を上回っていることが評価される。 ・ 競争的資金の獲得件数・金額は全学的に高い水準であり、前年度より高額でかつ、目標値を上回っている点が高く評価できる。
【社会貢献 （産学共創）】	A	年度計画の達成状況が良好である。
		・ 共同研究・受託研究の受入金額は目標値は下回っているが、共同研究講座・協働研究所の価値を高める様々な活動は評価できる。
【グローバル化】	S	年度計画の達成状況が優れている。
		・ コロナ禍の影響にもかかわらず、外国人留学生比率が前年度より増加し、目標を上回った点は、高く評価できる。
【業務運営】	S	年度計画の達成状況が優れている。
		・ 女性研究者比率について数値目標が未達成であるが、クロス・アポイントメント制度を活用して多数の女性研究者を採用したこと、正規ポストでの女性研究者の増加に加え、すそ野拡大にも取り組んでおり今後の展開に期待できる。 ・ 若手教員の割合は、全学的に高い水準を持続しており、今年は目標値を上回った点が評価できる。

※ 評定は「SS・S・A・B・C」の5段階評価である。

令和3年度実績に係る部局評価書

基礎工学部・基礎工学研究科

項 目	評 定	主なコメント
【教育】	S	年度計画の達成状況が優れている。
		・ 科学技術英語の取組とともに、外国語力の基準を満たす学生数の割合を大幅に増加させて目標値を達成したことは、高く評価できる。
【研究】	S	年度計画の達成状況が優れている。
		・ 論文数は全学的に高水準で推移している。目標値には達していないが、教員に資金の提供を行い、研究の推進を促進している点は評価できる。 ・ 競争的資金の獲得件数・金額は、全学的に高い水準で推移しており、獲得金額は目標を大きく超えていることは、高く評価できる。
【社会貢献 （産学共創）】	S	年度計画の達成状況が優れている。
		・ 共同研究・受託研究の受入金額は、目標値に到達し、前年度の実績よりも上回った点が高く評価できる。
【グローバル化】	S	年度計画の達成状況が優れている。
		・ コロナ禍の影響にもかかわらず、外国人留学生比率が目標値を大きく上回っていることは高く評価できる。
【業務運営】	A	年度計画の達成状況が良好である。
		・ 女性研究者について数値目標をわずかに下回っているが、クロスアポイントメント制度等の積極的な活用を行っていることが評価できる。

※ 評定は「SS・S・A・B・C」の5段階評価である。

令和3年度実績に係る部局評価書

情報科学研究科

項 目	評 定	主なコメント
【教育】	S	年度計画の達成状況が優れている。
		・シラバスの記述に関する取組や教育アセスメントに関する取組が優れている。 ・外国語力の基準を満たす学生数の割合向上に向けて、着実な取組を実施しており、順調に進捗している。
【研究】	A	年度計画の達成状況が良好である。
		・論文数は目標値を下回っているが、若手研究者への支援が優れており、評価できる。 ・競争的資金の獲得件数は目標件数を下回っているものの、目標を上回る金額を獲得しているほか、若手支援の取組が優れており、評価できる。
【社会貢献 （産学共創）】	S	年度計画の達成状況が優れている。
		・目標値及び前年度の金額を上回る共同研究・受託研究の受入額となっており、評価できる。
【グローバル化】	S	年度計画の達成状況が優れている。
		・短期受入れプログラムにおいて、前年度から大幅な受入人数の増加が見られ、高く評価できる。 ・外国人留学生比率は目標値には達していないが、学内では高い水準が維持され、コロナ禍における各種取組が評価できる。
【業務運営】	S	年度計画の達成状況が優れている。
		・外国籍教員の割合及び若手教員の割合は、全学的に高い水準であり、目標値を超え前年より増加したことが評価できる。 ・女性研究者比率について数値目標が未達成であるが、クロス・アポイントメントの積極的活用、女子学生のエンカレッジ、さらにすそ野拡大の取組を幅広く実践しており、今後に期待する。

※ 評価は「SS・S・A・B・C」の5段階評価である。

令和3年度実績に係る部局評価書

生命機能研究科

項 目	評 定	主なコメント
【教育】	S	年度計画の達成状況が優れている。
		・ 目標を十分に上回っており、前年度からの外国語力の基準を満たす学生数の割合の増加率も全学トップであることは、高く評価できる。
【研究】	S	年度計画の達成状況が優れている。
		・ 論文数は前年から実績値が増加するとともに、目標値を上回っていることが高く評価できる。 ・ 競争的資金の獲得件数・金額は、学内水準からも高い数値が維持され、前年度を上回る件数・金額であることは高く評価できる。
【社会貢献 （産学共創）】	A	年度計画の達成状況が良好である。
		・ 共同研究・受託研究の受入金額は、目標値を上回っており、順調な進捗が見られる。
【グローバル化】	S	年度計画の達成状況が優れている。
		・ 外国人留学生比率は、学内において高い水準にあり、コロナ禍の影響にもかかわらず、前年度比でも増加したことが高く評価できる。
【業務運営】	B	年度計画の達成状況が不十分である。
		・ 外国籍教員の割合に関して、様々な取組は評価するものの、評価は成果指標の実績値に基づき、判断した。 ・ 女性研究者比率は順調に増加しており、数値目標を達成したことは評価できる。

※ 評価は「SS・S・A・B・C」の5段階評価である。

令和3年度実績に係る部局評価書

連合小児発達学研究所

項 目	評 定	主なコメント
【教育】	S	年度計画の達成状況が優れている。
		・ 前年度から外国語力の基準を満たす学生数の割合が増加し、目標値を達成したことが評価される。
【研究】	S	年度計画の達成状況が優れている。
		・ 論文数は前年度よりも増加し、目標値を大きく上回ったことは高く評価できる。
【社会貢献 （産学共創）】	A	年度計画の達成状況が良好である。
		・ 共同研究、受託研究の受入金額について、目標値にはわずかに届かなかったものの、順調に進捗している。
【グローバル化】	A	年度計画の達成状況が良好である。
		・ 外国への学生派遣を支援する体制整備を進めており、今後の活動が期待される。
【業務運営】	S	年度計画の達成状況が優れている。
		・ 女性研究者比率はすでに50%以上となっているところ、数値目標を大幅に上回るなど順調に増加しており、高く評価できる。 ・ 若手教員の割合は、前年比ではやや低下しているものの、目標値を上回った点は評価できる。

※ 評定は「SS・S・A・B・C」の5段階評価である。

令和3年度実績に係る部局評価書

微生物病研究所

項 目	評 定	主なコメント
【教育】		—
【研究】	SS	年度計画の達成状況が非常に優れている。 ・論文数及び競争的資金の獲得件数・金額は、目標値を大幅に上回っており、非常に高く評価できる。
【社会貢献 （産学共創）】	S	年度計画の達成状況が優れている。 ・共同研究・受託研究の受入金額に関して、学内外及び産業界からの要望に応え、共同研究、受託研究、分野横断型研究を広く展開したことが高く評価できる。 ・共同研究の受入額が前年度よりは下がったが、依然として目標値の倍以上であることは評価できる。
【グローバル化】		—
【業務運営】	S	年度計画の達成状況が優れている。 ・女性研究者比率について数値目標が未達成であるが、若手女性研究者の雇用、ロールモデル提示を積極的に行っており、今後に期待できる。 ・若手教員の積極的な採用を行い、前年度からその割合を大きく増加させていることが高く評価できる。

※ 評定は「SS・S・A・B・C」の5段階評価である。

令和3年度実績に係る部局評価書

産業科学研究所

項 目	評 定	主なコメント
【教育】		—
【研究】	S	年度計画の達成状況が優れている。 ・論文数は、全学的に高水準が維持されているところ、本年も目標を上回るとともに、前年度からの増加が見られることは高く評価できる。 ・競争的資金の獲得件数が前年度より非常に大きく増加し、高く評価できる。 ・競争的資金の獲得件数・金額は全学的に高水準が維持され、また、目標を上回っている。また、研究費の採択に向けた取組も優れている。
【社会貢献 （産学共創）】	S	年度計画の達成状況が優れている。 ・共同研究・受託研究の受入金額は既に全学的に高水準であるところ、目標値を上回るとともに、前年度からの増加が見られ、高く評価できる。
【グローバル化】		—
【業務運営】	S	年度計画の達成状況が優れている。 ・外国籍教員の割合及び若手教員の割合は、全学的にみて高水準を維持しており、目標値を上回っている点は評価できる。 ・女性研究者比率が減少し、数値目標が未達成であるが、女性研究者の活動支援策として「産研ダイバーシティ推進女性研究者支援制度」による支援（R3年度総額7,636千円）を部局中央経費により実施したことは評価できる。 ・研究費支援等、若手研究者のサポート体制が優れている。

※ 評価は「SS・S・A・B・C」の5段階評価である。

令和3年度実績に係る部局評価書

蛋白質研究所

項 目	評 定	主なコメント
【教育】		—
【研究】	S	年度計画の達成状況が優れている。 ・ 前年度よりも大幅に論文数を伸ばし、目標も達成していることが評価できる。 ・ 競争的資金の獲得件数・金額は目標値には到達しなかったが、獲得金額は前年よりも増加したことが評価できる。
【社会貢献 （産学共創）】	A	年度計画の達成状況が良好である。 ・ 共同研究・受託研究の獲得について、学内の支援体制を積極的に活用し、今後の向上に期待したい。
【グローバル化】		—
【業務運営】	S	年度計画の達成状況が優れている。 ・ 女性研究者比率について数値目標を大きく上回り、前年度に続き30%以上となっている。従来から各研究室から女性限定で優れた研究者を推薦し、所内会議で選考し助教として採用する方策を実施するなど、積極的な取組が評価できる。 ・ 「新分野開拓支援プログラム」など、若手研究者の人材育成に力を入れている点が評価される。

※ 評価は「SS・S・A・B・C」の5段階評価である。

令和3年度実績に係る部局評価書

社会経済研究所

項 目	評 定	主なコメント
【教育】		—
【研究】	S	年度計画の達成状況が優れている。 ・前年度よりも大幅に論文数及び競争的資金の獲得件数・金額を伸ばし、目標を達成していることが高く評価できる。
【社会貢献 （産学共創）】	C	年度計画の達成のためには重大な改善事項がある。 ・受託研究獲得への取組は評価できるものの、共同研究・受託研究の受入金額について成果指標の実績に基づいて判断した。 ・共同研究・受託研究の獲得に向けて、学内の支援体制を積極的に活用し、今後の向上に期待したい。
【グローバル化】		—
【業務運営】	A	年度計画の達成状況が良好である。 ・外国籍教員の割合は、目標値を達成できなかったが、高い水準にあることは評価できる。 ・女性研究者比率は数値目標が未達成となったが、クロス・アポイントメントでの雇用にも取り組んでいるところであり、今後に期待する。

※ 評定は「SS・S・A・B・C」の5段階評価である。

令和3年度実績に係る部局評価書

接合科学研究所

項 目	評 定	主なコメント
【教育】		—
【研究】	S	年度計画の達成状況が優れている。 ・論文数が前年度から大きく増加しており、TOP10%論文が5割以上増加していることが、極めて高く評価できる。
【社会貢献 （産学共創）】	A	年度計画の達成状況が良好である。 ・共同研究・受託研究の受入金額は、目標を上回る成果を上げており、順調に進捗している。
【グローバル化】		—
【業務運営】	SS	年度計画の達成状況が非常に優れている。 ・外国籍教員及び若手教員の対前年度比の増加率が全学トップクラスであり、極めて高く評価できる。 ・女性研究者比率について数値目標を達成し、順調に増加している。クロス・アポイントメント制度を積極的に活用し、JWRI女会の活動も活発で女性研究者活躍の環境の醸成に寄与している点が高く評価できる。

※ 評価は「SS・S・A・B・C」の5段階評価である。

令和3年度実績に係る部局評価書

核物理研究センター

項 目	評 定	主なコメント
【教育】		—
【研究】	A	年度計画の達成状況が良好である。 ・ 目標は達成していないものの、競争的資金の獲得件数・金額ともに前年度より増加しており、評価できる。
【社会貢献 （産学共創）】	A	年度計画の達成状況が良好である。 ・ 阪大発のベンチャー企業となる株式会社を設立したことは、高く評価できる。 ・ 共同研究・受託研究の受入金額については、外部要因によって減少したことは理解できるものの、成果指標の実績に基づいて判断した。学内の支援体制を積極的に活用し、今後の向上に期待したい。
【グローバル化】		—
【業務運営】	B	年度計画の達成状況が不十分である。 ・ 女性研究者比率について数値目標は未達成であるが、人事調査委員会のジェンダーバランスに配慮し、1名以上の女性委員が委員会に含まれるよう努めていること、クロス・アポイントメントを活用した女性研究者の採用を進めていることは評価でき、今後に期待する。 ・ 年齢進行で若手が減少した状況は理解できるが、実績値に基づき評価した。

※ 評価は「SS・S・A・B・C」の5段階評価である。

令和3年度実績に係る部局評価書

サイバーメディアセンター

項 目	評 定	主なコメント
【教育】		—
【研究】	A	年度計画の達成状況が良好である。 ・ 目標は達成していないものの、研究活動を推進するための取組により、論文数の実績及び競争的資金の獲得件数、金額の実績が高まっており、今後に期待できる。
【社会貢献 （産学共創）】	A	年度計画の達成状況が良好である。 ・ 共同研究・受託研究の受入金額等の成果指標に関しては、学内の支援体制を積極的に活用し、今後の向上に期待したい。
【グローバル化】		—
【業務運営】	A	年度計画の達成状況が良好である。 ・ 女性研究者比率が数値目標を大きく上回っていることは評価できる。サイバーメディアセンターをベースとして複数のクロス・アポイントメント研究者を交えた共同研究が発展し、研究ネットワークを拡大していることは評価でき、今後に期待する。 ・ 目標に達していないが、若手教員への研究助成などの取組は評価できる。

※ 評定は「SS・S・A・B・C」の5段階評価である。

令和3年度実績に係る部局評価書

レーザー科学研究所

項 目	評 定	主なコメント
【教育】		—
【研究】	A	年度計画の達成状況が良好である。 ・論文数は前年度よりも減少したが、目標を達成しており、また個人年度目標を定めるなどの取組が優れている。 ・FWCI、Top10%論文割合がともに前年度を上回ったことは評価できる。 ・競争的資金の獲得件数、金額は、目標値をわずかに下回ったが、前年度より上昇しており、評価できる。
【社会貢献 （産学共創）】	S	年度計画の達成状況が優れている。 ・共同研究・受託研究の受入金額は、目標を上回る成果を上げており、共同研究部門を新たに設置するなどにより、産学連携研究を強化している点も評価される。
【グローバル化】		—
【業務運営】	A	年度計画の達成状況が良好である。 ・女性研究者の増加及び女子留学生の受入れ数を増やす取組は評価できる。 ・目標値は達成していないが、前年度より若手教員の割合を増加させた点が評価できる。

※ 評定は「SS・S・A・B・C」の5段階評価である。